

内閣総理大臣補佐官

衆議院議員 埼玉1区（岩槻区・浦和区・緑区・見沼区）

村井ひでき

通信
第35号

CHALLENGE
日本の新しい力

http://www.muraihideki.com/
TEL 048-711-3241
FAX 048-711-3242



衆議院議員 村井英樹です。7月8日、安倍元総理が、遊説中に凶弾に倒れ、お亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。私の想いを裏面に記させて頂きましたので、是非ご一読ください。

また、本号では、村井英樹の総理補佐官としての9か月間の活動を報告致します。総理官邸の中で、新型コロナ・ウクライナ危機・物価高騰など、目まぐるしく状況変化する国政の最重要課題に全力投球。これまで見えなかった景色を目にする中で、改めて「国政運営の難しさ」・「総理の職責の重さ」を実感する日々でした。

何より、こうした仕事をさせて頂けるのは地元の皆様のお陰です。改めて感謝申し上げます。

総理補佐官の仕事①：総理の決断をサポート

岸田総理就任を実現した「チーム岸田」の一員として、国民の皆様にお約束した公約の実現・山積する課題の解決に向け、全力で取り組んでいます。

総理の日常は多忙を極めます。日々、想定外のことが起こり、限られた時間の中で、迅速な判断が求められます。そんな総理の決断を補佐するのが、私の仕事です。霞が関の政策提案を参考にしつつも、鵜呑みにはせず、国民の立場で何が正しいかを考え抜き、総理にアドバイスします。

例えば、昨年11月末、オミクロン株が世界で広がり始め



た際、岸田総理は、「慎重すぎるとの批判は全て私が受ける」との言葉で、新規外国人受入を一時停止することを決断しました。この決断に際しては、経産省は「ビジネス交流を優先したい」、文科省は「留学生受入を優先したい」、外務省は「相手国との相互主義を大切にしたい」など、霞が関側には異論もありました。しかし、



全体最適を考えた上で、岸田総理のトップダウンの決断となりました。

「何が正しい決断か」。後で振り返れば、当然に思われることでも、適時適切な判断を続けることは簡単ではありません。試行錯誤しながら、総理補佐官として、岸田総理の最善の決断をサポートしています。

村井ひできミニプロフィール

昭和55年さいたま市生まれ。

浦和区在住。42歳。

家族：妻・長男（7歳）二男（5歳）三男（2歳）。

浦和市立別所小学校卒業。

東京大学卒業後、財務省入省。

ハーバード大学大学院修了。

平成23年財務省退官（主税局参事官補佐）。

平成24年12月初当選。現在4期。

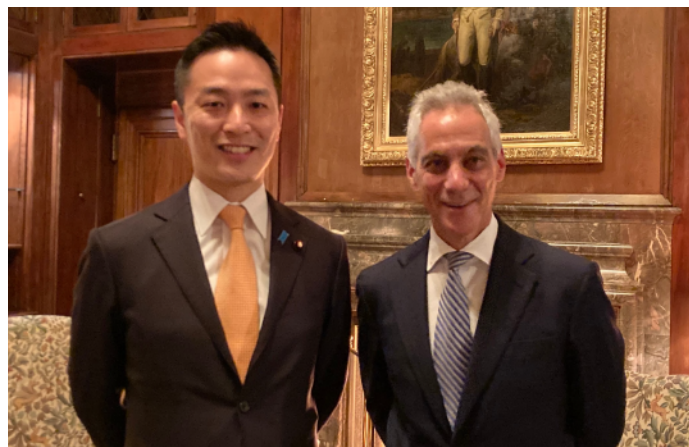
令和3年10月内閣総理大臣補佐官。

（自民党政権歴代最年少）



総理補佐官の仕事②：総理の代役として

前述した通り、総理の時間は限られています。総理の代役として、各国大使・各種団体などと意見交換し、必要な情報を総理にインプットすることも、補佐官の仕事の一つです。写真はエマニュエル米国大使と意見交換した際のものです。我が国を取り巻く安全保障環境が悪化する中で、米国との連携は欠かせません。幅広いテーマで意見交換を続けています。また、エマニュエル大使はオバマ政権時代に大統領補佐官を



務められたこともあり、個人的にも意気投合させて頂いております。

総理補佐官の仕事③：政権の主要政策をリード

政権の重要政策については、総理官邸として、与党や霞が関をリードすることが求められます。村井も、「官邸チーム」の一員として、以下のような、幅広い政策課題の企画・立案・調整に地道に汗をかきました。

ウクライナ危機に対し、「官邸主導」で毅然たる外交を展開！

2月24日、ロシアがウクライナを侵攻。岸田総理を中心とした官邸チームは、様々な情報を基に、直ちに、「ロシアの暴挙は、力による一方的な現状変更の試みであり、国際秩序の根幹を揺るがすもの」と認定。最大限の非難を表明するとともに、G7を始めとする基本的価値観を共有する各国と連携し、経済制裁を含め、毅然とした外交を展開しました。今後は「ウクライナは明日の東アジアかもしれない」という危機感を持って日米同盟の深化など、安全保障体制の強化を進めます。



松野官房長官との打ち合わせ

介護・保育分野など、公的に決まる賃金の引上げを実現！

昨年の総選挙でお約束した通り、介護士・保育士など、賃金が公的に決まるにも関わらず、仕事内容に比して報酬が十分でない皆様の賃金引上げを実現しました。また、賃上げ税制の抜本拡充などを進め、民間企業も、今年の春闘では、平均 2.07% の賃上げが実現しました。コロナ禍からの経済回復もあり、足元の業績は、大企業中心に過去最高となっています。物価高騰の中、その果実をしっかりと、中小企業や従業員の方に還元して頂くことが、これまで以上に大切です。今後も、最低賃金の全国平均 1000 円の実現など、継続的な賃上げに取り組めます。



保育士の皆様からお話を伺う

霞が関の縦割りを打破し、「こども家庭庁」の創設を決定！

コロナ禍で深刻度を増した少子化。抜本的に子育て支援を進めるため、「こども家庭庁」の来年4月の創設を決めました。子どもに関する施策は、幼児教育は文科省、保育は厚労省、少子化対策は内閣府、児童虐待は厚労省・法務省など、各行政部局に跨っています。こうした霞が関の「縦割り行政」を打破し、子どもに関する施策を一元的に進めるため、官邸が中心となり、「こども家庭庁」創設を決めました。今後は、こども家庭庁を中心に、ライフワークとして取り組んでいる学童保育制度の拡充など具体的施策を実現して参ります。



霞が関官僚の皆さんとの打ち合わせ

権力の集中と惰性を防ぐ、役員任期制限など「自民党改革」を断行！

昨年の自民党総裁選において、岸田総裁候補（当時）は、党内の権力の集中と惰性を防ぐために、幹事長などの党役員任期を「1期1年3期まで」とすることを約束しました。そのため、総理の直属組織である党改革実行本部において、村井も事務局長代理を拝命。党役員の範囲を確定するなどの調整を行った上で、具体的党則改正を行いました。また、自民党が、自らを律するために、党運営の在り方を定めた「ガバナンスコード」を、我が国の政党として初めて策定しました。「政治不信」、「政治家不信」の払拭に努めます。



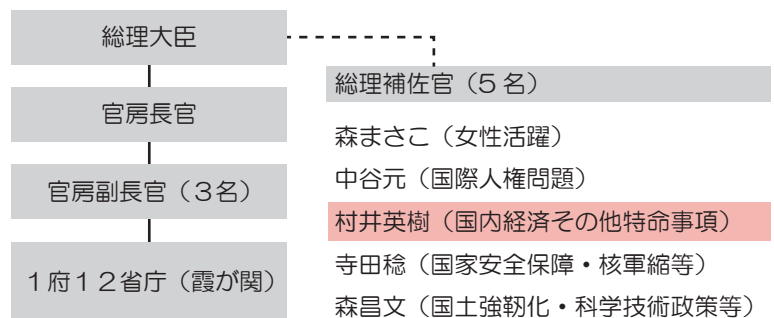
Z世代との意見交換

総理官邸とは？



我が国の行政府は、総理をトップとして、1府12省庁、約60万人の国家公務員で組織されています。そのヘッドクォーターとして、重要施策の最終的な意思決定を行う場所が、総理官邸です。

「官邸主導」という言葉にもある通り、近年その重要性がクローズアップされることも多いですが、意思決定に関わるのは、総理・官房長官・3人の副長官・



5人の総理補佐官と、それを補佐する数十名の事務方のみの非常にスリムな組織です。

なお、総理補佐官は、5名おり「女性活躍」、「国際人権問題担当」など、それぞれ限定的に職務内容が規定されていますが、村井については、「国内経済その他特命事項」とされており、どんな案件でも対応できるようになっています。

安倍晋三元総理 銃撃事件について

去る、7月8日、安倍元総理の銃撃事件が起きました。未だに、信じる事ができませんし、心の中に大きな穴があいた状態が続いています。安倍元総理のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

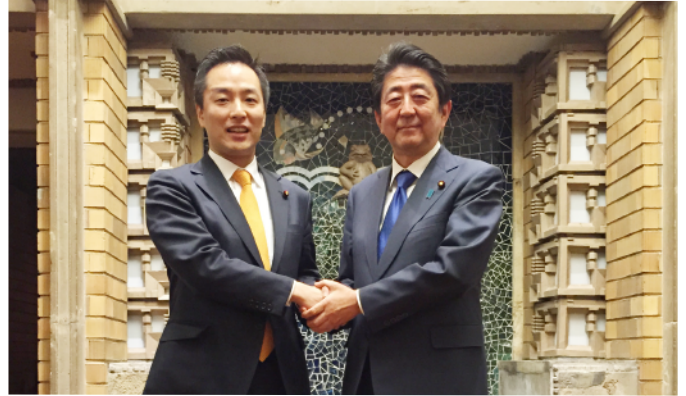
安倍元総理に初めてお会いしたのは、自民党が下野をしている最中の2011年秋。私が自民党の次の衆議院選挙の候補予定者（埼玉1区支部長）に決まった際でした。安倍事務所にて挨拶に伺った私に、1時間近く、マンツーマンで、どのように有権者の皆さんと信頼関係を築くか、小選挙区で勝ち抜くかについて、アドバイス頂きました。総理経験者の方から、「こんなにも丁寧にアドバイスを頂けるのか」と感激すると同時に、「何としても政権を奪還する」という安倍元総理の並々ならぬ決意を感じました。

その後、私は、候補予定者として、地元での活動をスタート。1年経った、2012年秋には、安倍元総理が、自民党総裁に再度選出されました。そして、いよいよ決戦の衆議院選挙というタイミングで、安倍元総理に、私の応援のため、浦和駅前にお見え頂きました。私自身は、初めての街宣車の上からの演説。多くの聴衆の前で、右も左も分からない状況でしたが、演説が終わって、安倍元総理から「1年間よく頑張ったね。自信をもってやれば、必ず勝てるから。国会で会おうね。」と励まして頂いたのが、非常に印象に残っています。



安倍元総理は、言うまでもなく、憲政史上最長の長期政権を確立し、日本経済を成長軌道に戻すとともに、世界における日本の存在感を大きく高めた、我が国が誇るリーダーです。同時に、私個人にとっては「優しく、親身な大先輩」であり、たくさんのことを学ばせて頂きました。今でも、あの柔和な笑顔を二度と見られないということが、信じられない気持ちのままです。

それだけに今回の事件は、大変無念でなりませんし、民主主義の根幹を成す選挙中に、言論を封殺する行為を、断じて許すわけにはいきません。残された我々にできることは、安倍元総理の志をしっかりと引き継ぎ、この国をより良くするために、全力で取り組むことだと思います。



まずは、アベノミクスを目指した経済再生を今後もしっかり進めます。ロシアのウクライナ侵攻により、世界的に物価が上昇しています。物価高対策・賃上げ促進に全力で取り組むと同時に、グリーン・デジタル・スタートアップなど、今後の成長分野への国内投資を拡大し、強い経済を実現してまいります。

また、安倍元総理が提唱し、世界全体の目標となった「自由で開かれたインド太平洋の実現」に向けて、外交・防衛の強化を着実に進めてまいります。まずは、年内に、厳しい安全保障環境の中にあっても、我が国をしっかりと守り抜くため、防衛力の抜本的な強化に向けた道筋を明確化してまいります。

さらに、安倍元総理は、全ての世代が安心できる、全世代型の社会保障の実現に向けて、幼児教育・保育の無償化や待機児童の解消を推進されました。3人の息子の子育てと仕事の両立に日々格闘している私としても、子育て世代の代表として、社会全体で子育てを支える仕組みの実現に向けて、引続き全世代型社会保障改革を推進してまいります。

その上で、安倍元総理が最後まで意欲を示されていた憲法改正も、国民の皆様の理解を得ながら、早期の発議と国民投票の実現に向けて取り組んでまいります。

今回の参院議員選挙では、自民党63議席、与党76議席という、大変大きな支持を頂きました。

私としても、岸田政権を支える総理大臣補佐官として、安倍元総理の志をしっかりと引き継ぎ、国民の皆様からのご期待に少しでも応えられるよう、新たな気持ちで、職務に取り組む覚悟です。引き続き、皆様のご指導をお願いいたします。